

災害時に住民に緊急情報を伝へ、避難を呼び掛ける防災無線。東日本大震災の被災地では無線が故障して、住民が呼び掛けに聞こえない事例もあり、計画的に機能しない面があった。

南三陸町

町内に巨基の屋外 塔が出た。早く高スリカーを設置して「台に避難」。多くののみ込まれるまで、命いた宮城東三陸町。「六分の津波が来まを犠牲にして大津波 地震直後、町役場は「二十分以内に津波が来が来見え」ます」と避難を呼びかけ、町職員は避難を呼びかけた。三陸に大津波警 へは現場で津波に さんへは「町の健康 された。漁師の佐々木



山形県 宮城県 南三陸町 仙台 山形 宮城 福島

聞こえても「応じず」

海側より内陸の被害大 「逃げる」意識が大切



町職員は避難を呼びかけ、津波が来まを犠牲にして大津波 地震直後、町役場は「二十分以内に津波が来が来見え」ます」と避難を呼びかけ、町職員は避難を呼びかけた。三陸に大津波警 へは現場で津波に さんへは「町の健康 された。漁師の佐々木



各世帯に配られている防災無線の受信機



町職員は避難を呼びかけ、津波が来まを犠牲にして大津波 地震直後、町役場は「二十分以内に津波が来が来見え」ます」と避難を呼びかけ、町職員は避難を呼びかけた。三陸に大津波警 へは現場で津波に さんへは「町の健康 された。漁師の佐々木

東海の自治体 見直し進む

近江将米船きやとれる東海地震では、津波の襲来も想定される。東海地方では防災無線の設置は、一部を除き、未設置の自治体は、沿岸部、調査前倒し、三重、合併後も地域で「差」

愛知 沿岸部、調査前倒し

未整備の自治体、沿岸部の五市二町に、三重、合併後も地域で「差」

名取市

仙台港北側に広がる宮城県名取市は震災発生直後、二一基ある防災無線スリカーのうち海沿いの十基を避難を呼びかけるとした。しかし、役所内にある送信機の電源装置が地震の揺れで故障。二一基が飛び、放送できなかった。

消防団員だった長男の会社員も、車で避難を呼びかけた。津波にのまれた津也さんは後日、車の中で遺体で見つかった。笑っていなくなった。津波を知らせてもらえていたら、みんな助かっていたかもしない。津也さんは「助かった命があったかもしない」と悔やんでいる。

地震で故障 外では知るすべなく

津波が来るとも知らなかったが、「地震が来たか」と高台へ避難。その場にたどたどしく入った。津波が来るとも知らなかったが、「地震が来たか」と高台へ避難。その場にたどたどしく入った。

次回は携帯電話について考えます。

母校の雰囲気 変わった

沙也加さんは会津若松に移った後も、愛知県豊田市の中学校でできた友人たちとメールや手紙をやりとりしている。

「戻ってきたら?」「修学旅行楽しかったよ。一緒に行きたかったな」。ともに机を並べたのは2カ月足らずだが、優しい文面を見れば、自然に級友の顔が浮かぶ。

「先生も、何かと声をかけてくれて心強かった」。避難する旅館の和室で、隣に座った幸さんも懐かしそうに振り返った。

それに比べて、母校の大熊中は、何だか変わってしまったような気がする。

間借りするのは町の臨時庁舎の2階。母校の建物を使っているため違和感はないが、仲間は各地へ避難してしまい、3年生は半分の70人に減った。温泉街の各旅館に暮らす生徒をバスで送迎するため、授業開

原発1キロからの避難
いつの日か

— 8 —

始も1時間遅い9時からだ。「雪が積もる冬が来たかどうかのかな」。温暖な浜通り育ちの沙也加さんは苦笑する。

でも、一番きこえないのは全体の雰囲気だと感じる。「みんな、私たちの学年が卒業したら、学校が消えてしまうんじゃないかと話してる」。先生も生徒も、先の見えない原発事故の被災者。沙也加さんも目指していた県立高校が入学試験をするのかさえ不透明だ。

そんな学校生活ももうすぐ夏休み。だが、息つく間もなく、瑞さん一家はまたも引っ越しをすることになった。仮設住宅への入居が決まったのだ。

瑞（はなわ）さん一家 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん（43）と妻幸さん（43）、次女沙也加さん（15）は豊田市で暮らし、会津若松市に移った。長女梨奈さん（18）は東京で大学生生活。